『NHK日本語発音アクセント辞典』改訂項目表示形式の検討

～アクセント辞典改訂専門委員会（第６回）から～

メディア研究部　塩田雄大

『日本語発音アクセント辞典』の「第6回アクセント辞典改訂専門委員会」が，2012年5月25日（金）に開かれた。その概要を報告する。

1　「国語辞典方式」の採用

A．見出しの立て方について

NHKのアクセント辞典は，1943（昭和18）年の初版以降，これまで「発音およびアクセント型ごとに見出しとする掲載方式」を採ってきた。

〔アクセント辞典の例（現行）〕
コーホー　広報，工法
コーホー，**コーホー**　公法，公報
コーホー　後方，後報，高峰

一方，『NHK漢字表記辞典』および『NHKことばのハンドブック』では，「語ごとに見出しとする掲載方式（＝一語一項目式）」を採っている。

〔漢字表記辞典の例（現行）〕
こうほう　**工法**　ビル建築の～。
こうほう　**公法**
こうほう　**公報**　選挙～。
こうほう　**広報**〔×弘〕　～紙。
こうほう　**後方**
こうほう　**航法**
こうほう　**高峰**

近年，辞典類の電子化が進んでいる。具体的には，アクセント辞典は2012年からiPhoneおよびAndroid用の音声付きアプリとして利用することも可能になっている。

こうした現状において，将来的には，アクセント辞典と漢字表記辞典・ことばのハンドブックなどを統合した資料体の完成が望まれる。ところが，アクセント辞典が現在，上記のような掲載方式を採っていることが，これらの統合をむずかしくさせている。

改訂事務局としては，将来を視野に入れて，アクセント辞典の見出しの立て方を「語ごとに見出しとする掲載方式」に変更し，『NHK漢字表記辞典』および『NHKことばのハンドブック』と合わせることを提案した。

B．見出しの配列について

『NHK漢字表記辞典』および『NHKことばのハンドブック』では，「現代かなづかい」を基準とした五十音順の配列を採っている。

一方，アクセント辞典では，これまで「カタカナによる発音表記」を基準とした五十音順の配列をおこなってきた。この方法に対して，アナウンサーをはじめとする使用者から「目的の単語を探しにくい」という声が寄せられることがある。

たとえば「おうせつ（応接）」をアクセント辞典で引こうとしたときに，下記に見るとおり，この項は「オウス」と「オウタカイ」の間にはない。発音表記「オーセツ」に変換したうえで，もっと後ろのほうを見なければならない。

オウス　お薄〔茶道〕
オウタカイ，**オウタカイ**　お歌会
（中略）
オーセキ，**オーセキ**　往昔
オーゼキ　大関〔相撲〕
オーセツ　応接

一方，漢字表記辞典では以下のようになっている。

おうせつ　**応接**　～間
（中略）
おおぜき　**大関**

同様に，「みかづき（三日月）」も「ミガタメ」と「ミガッテ」の間にはなく，発音表記「ミカズキ」に変換したうえで，もっと前のほうを見る必要がある。

ミカケル，**ミカケル**　見かける
ミカズキ　三日月
ミカズキガ゜タ　三日月形
ミカタ，**ミカタ**　見方（物の～）
ミカタ　味方
ミガ゜タメ　身固め
ミガ゜ッテ　身勝手

漢字表記辞典では以下のようになっている。

みかける　**見かける**〔掛〕
みかた　**見方**
みかた　**味方**〔身〕
みがため　**身固め**
みかづき　**三日月**
みがって　**身勝手** 送

これについても，改訂事務局としては，『NHK漢字表記辞典』に合わせて「現代かなづかい」による表記情報を追加した上で，これを基準とした五十音順に変更することを提案した。

これら2点（A．見出しの立て方について，B．見出しの配列について）に関しては，各委員からの了承が得られた。この2点を合わせて，「国語辞典方式」と呼ぶことができる。

2　アクセント記号について
ー「第1アクセント型」を目立たせ，それ以外の型も示すー

「国語辞典方式」の採用に伴って，表示項目数がこれまでよりもかなり多くなることが予測された。1冊の辞書として厚くなりすぎないように，スペースの節減が必要となってくる。そのため，第4回アクセント辞典改訂専門委員会（2010年実施）で確認したアクセント記号の表示法（塩田雄大（2010））についてはいったん保留とした上で，各項のアクセント表示法に関する諸試案を改訂事務局で作成した。

そのなかで，下記に示した一連の部分については，修正の余地ありと指摘された。理由は，事務局の趣旨はわかるものの，現行の表示方式にくらべて読みとりにくくなるということである。

（事務局原案の一部）アクセント表示法【当初案】
◎アクセント核のある拍を，カタカナ1文字で示す。
あたりくじ　リ タ　当たりくじ
アイデア　ア デ　idea
◎一語中，同音の拍が複数ある場合は，数字を付して何番目のものであるかを示す。
あたたか　タ^{2} タ^{1}　温か
あたたかさ　タ^{2} カ　温かさ
◎平板アクセントは「平」で示す。
あいでし　平　相弟子
あたまかず　カ 平 マ　頭数
◎複数の型がある場合は併記し，優勢な型を先に示す。許容アクセントは（　）内に示す。
（現行版の「伝」（伝統的）は残すかどうか検討）
あだうち　平 チ（ダ）　あだ討ち
あいふだ　平 タ（イ）　合い札

◎二語意識のある語は「=」で区切りを示し，見出しのひらがなに半角スペースを入れて，語の区切りを示す。（「－」は長音記号のようで紛らわしいので「=」を使用）
あい なかばする　ア＝バ　相半ばする
あいみ たがい　ア ア＝平　相身互い

この指摘を受け，席上で意見を出し合って修正案を模索した。そこで重視されたのは，「第1アクセント（推奨アクセント）型」については，見やすい形で強調して示すのがよいのではないかという発想である。このように第1アクセントをそれ以外のものから卓立させて示すという視点は，第4回アクセント辞典改訂専門委員会（2010年実施）でも示されている（塩田雄大（2010）p.55参照）。

結果的に，第1アクセント型については2010年の原案どおり音調の上がり目と下がり目を示すこととし，おおむね以下のような案で合意を得た。

発音およびアクセント表示法【修正案】
基本方針〔書籍版〕
各項目は，左から順に，以下のように列挙して表示することにする。
①見出し
：現代かなづかいによる，かな表記。
外来語は見出しをカタカナで示し，原語表記は原則として載せない。
②放送での標準表記
③放送での発音と第1アクセント型
（推奨アクセント型）
：発音をカナで示し，音調の上がり目と下がり目をスラッシュ（／，＼）で表す。平板アクセントは末尾に→を付ける。
④共通語アクセント型
：共通語のアクセントとして十分認められる諸型（第1アクセント型も含む）を記載する。
アクセント核のある拍を，カタカナ1文字で示す。
一語中に同音の拍が複数ある場合は，数字を付して何番目のものであるかを示す。
平板アクセントは「平」で示す。
複数の型がある場合は併記し，優勢な型を先に示す。
【修正案】による表示例
あいにく　【生憎】ア／イニク→　平
アイテム　／ア＼イテム　ア
あだうち　あだ討ち【仇】
ア／ダウチ→　平 チ（ダ）　注）（　）は許容アクセント
あたえ　与え　ア／タエ→　平
あたえる　与える　ア／タエル→　平
あだおろそかに　あだおろそかに
ア／ダオロ＼ソカニ　ロ
あたかも　あたかも　／ア＼タカモ　ア
あたし　あたし〔俗〕　ア／タシ→　平
あだする　あだする〔古語〕　ア／ダ＼スル　ダ ス

あたたか　温か　ア／タタ＼カ　タ[2] タ[1]
あたたか　暖か　ア／タタ＼カ　タ[2] タ[1]
あたたかい　温かい　ア／タタカ＼イ　カ
あたたかい　暖かい　ア／タタカ＼イ　カ
あたまかず　頭数　ア／タマカ＼ズ　カ 平 マ
つづき　続き　ツ／ズキ→　平

なお周知のとおり，アクセント表示において本質的に重要なのは，下がり目（＼）である。それに対して上がり目（／）は，語単独で言うときには現れていても，前に修飾語がきた場合などには一般に現れない。たとえば下記の「男の子」では，〔オ〕から〔ト〕にかけての上がり目は，「この男の子」「年下の男の子」においては消えてしまっている。

オ／トコ＼ノコ（男の子）
コ／ノオトコ＼ノコ（この男の子）
ト／シシタノオトコ＼ノコ（年下の男の子）

こうしたことから，「上がり目は本質的ではないので，そもそも表示する必要がない」という立場も成り立つ。

その一方で，アクセント辞典には「ひとまず単独で発音した場合にはどうなるのか」という情報を示してほしいという要望も，決して少なくない。

そのため，上がり目（／）は薄い線（あるいは点線）で示し，本質的なアクセントである下がり目（＼）は太い線で表す方向で検討をしている。アクセント辞典の利用者には，上がり目（／）はその語の文中での位置によって出現しないことがある旨を，辞書の冒頭で十分に説明することにした。

3　カナによる発音表記の変更について

ー〔ケイケン〕から〔ケーケン〕へー

エ段に続く「イ」の表記に関して，現行では次のようになっている。

現行の規定：
ケイケン〔経験〕，セイカク〔正確〕などのエ段音に続くイは，特に改まって一音一音正確に言う場合には，イと発音されるが，日常自然の発音では長音になる。すなわち，
　経験：改まった場合は　ケイケン
　　自然な発音では　ケーケン
となる。
これらは，元来，ケイケン，ケーケンと併記すべきであるが，便宜上ケイケンとのみ記載した。
（『NHK日本語発音アクセント辞典 新版』（1998）巻頭 p.6から（要旨））

この点に関して今回の改訂では，現実の発音のほうを重視すべきであることから，発音表記としては上記で言うところの「自然な発音（ex.「ケーケン」）」を示すことにした。なお，見出しの表示は「けいけん」である。

4　ガ行鼻音・無声化音について

ガ行鼻音（鼻濁音）・無声化音の情報に関して，これまでどおり掲載すべきかどうかを検討した。使用者のニーズとしては掲載を希望する声が強く，以下のような形で表示する案を示した。

がくげいかい　学芸会
　ガ／クゲ゜＼ーカイ　ゲ
しちゅう　市中　シ／チュ＼ー　チュ 平
シチュー　シ／チュ＼ー　チュ 平

5　2拍目が特殊拍である場合の上がり目表示について

現行版を含め，これまでのアクセント辞典では次のような方針に従っていた。

第1拍が高ければ第2拍は低くなり，逆に第1拍が低ければ第2拍は高くなります。つまり，第1拍と第2拍は高さがかならず違います。サクラ（桜）というような京阪式アクセントはないのです。
（『NHK日本語発音アクセント辞典 新版』（1998）巻末 p.6）

しかしこの特性には留保が必要で，2拍目が特殊拍の場合にはかならずしも当てはまらないことが，以前から指摘されていた。たとえば次のようなものである。

東京方言では，
　(a)〔コマギレ〕（細切れ）
　　〔コナゴナ〕（粉々）
　(b)〔コーバン〕（交番）
　　〔コンダン〕（懇談）
のように発音する人が少なくない。
（服部四郎（1954））

こうした問題に関して，第2回アクセント辞典改訂専門委員会（2008年実施）でも対応策が提案されていた（坂本充（2008））。今回はそれをさらに整理し，おおむね以下のような方針を提示した。

2拍目が特殊拍の語（頭高型は除く）は，以下のように示す。
①撥音「ン」・長音「ー」
　：1拍目から高い型とする。
　（下記「小売り」「毛糸」など，語の切れ目意識が

残るものはこの限りではない）
しんかんせん　新幹線　／シンカ＼ンセン　カ
こうえん　公園　／コーエン→　平
こおり　氷　／コーリ→　平
（cf. こうり　小売り　コ／ウリ→　平）
けいえい　経営　／ケーエー→　平
（cf. けいと　毛糸　ケ／イト→　平）
②促音「ッ」
：自立拍と同様に扱う。
さっかく　錯覚　サ／ッカク→　平
③二重母音の副音「イ」
：今後検討を進める。
だいがく　大学　／ダイカ゛ク→　平
OR　ダ／イカ゛ク→　平
まいごふだ　迷子札　／マイコ゛＼フダ　コ
OR　マ／イコ゛＼フダ　コ
（cf. まいか《真烏賊》　マ／イカ→　平マ）

6　いわゆる「二語意識の語」について

音調が複数回下がるものについては，以下のような表示案を示した。

あいなかばする　相半ばする
／ア＼イ ナカバ＼スル　ア＝バ
あいみたがい　相身互い
／ア＼イミタカ゛イ　ア　ア＝平

7　意味・用法によるアクセント区別について

以下のような表示案を示した。外来語については原音表記を載せる代わりに，用例や類語を記すことによって，同音異義語などの区別を表すようにする。

サポーター《保護具》　サ／ポ＼ーター　ポ平
サポーター《ファン》　サ／ポーター→　平ポ
バス《乗り物》　／バ＼ス　バ
バス《風呂》　／バ＼ス　バ
バス《楽器》　／バ＼ス　バ
はんとし　半年《名》（～ののち）
／ハントシ＼　シ
はんとし　半年《副》（～たつと）
／ハントシ→　平

8　語形のゆれなどの扱いについて

語形のゆれがある場合，放送での扱い方がわかりやすいように示すことにした。具体的には，◎（放送で推奨される語形），△（放送で使ってもかまわないが，より推奨される語形が別にある），×（放送では原則として用いない）などの記号を付すことにした。

①原則として用いない読みを表示するもの
いちだんらく　一段落　イ／チダ＼ンラク　ダ
×ひとだんらく
×ひとだんらく　一段落　◎イ／チダ＼ンラク

②読みの優劣が決まっているもの
さっきゅう　早急　サ／ッキュー→　平
△／ソーキュー→　平
そうきゅう　早急　／ソーキュー→　平
◎サ／ッキュー→　平
かみきれ　紙切れ　カ／ミキ＼レ　キレ
△カ／ミッキ＼レ　キレ
かみっきれ　紙っきれ　カ／ミッキ＼レ　キレ
◎カ／ミキ＼レ　キレ

③同列の読みのゆれがあるもの
あまがいとう　雨外とう【套】
ア／マカ゛＼イトー　ガ
ア／マガ＼イトー　ガ
あまっちょろい　甘っちょろい［俗］
ア／マッチョロ＼イ　ロ平
ア／マチョロ＼イ　ロ
あまちょろい　甘ちょろい［俗］
ア／マチョロ＼イ　ロ
ア／マッチョロ＼イ　ロ平

④接頭・接尾（接辞のついた語形を見出しに立てない場合）
てがみ　手紙　テ／カ゛ミ→　平
＊お～　オ／テ＼カ゛ミ　テ
あま　海女　／ア＼マ　ア
＊～さん　ア／マサン→　平

このほか，付録部分の構成などについても提案がなされた。

今後，今回の修正案をもとに具体的な作業を進めてゆき，その過程でおそらく出てくるであろう問題点をまとめたうえで，あらためて検討をおこなう。

（しおだ たけひろ）

引用文献：
・坂本充（2008）「『NHK 日本語発音アクセント辞典』改訂基本方針決まる」『放送研究と調査』58-11
・塩田雄大（2010）「全国アナウンサー音声調査の結果報告～アクセント辞典改訂専門委員会（第 4 回）から～」『放送研究と調査』60-5
・服部四郎（1954）「音韻論から見た国語のアクセント」『国語研究（国学院大学国語研究会）』2〔『日本の言語学　第 2 巻　音韻』（1980，大修館）に再掲〕

アクセント辞典改訂専門委員会（第 6 回）
【開催日】平成 24 年 5 月 25 日（金）
【場　所】NHK 放送文化研究所会議室
【出席者】井上史雄 氏，上野善道 氏，相澤正夫 氏，
渡部英美 氏，梅津正樹 氏，杉原 満（文研）ほか